課題番号２７

水稲直播の新規導入に向けた技術支援

対象：直播研究会志向農業者６戸

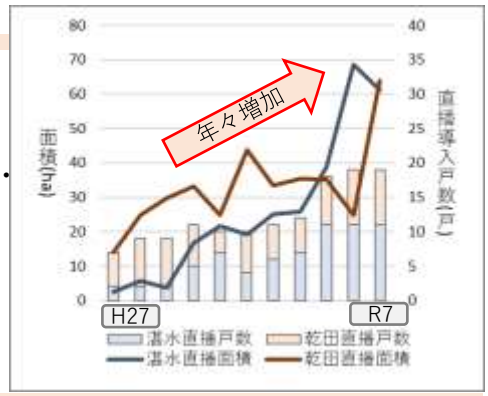
1　活動の背景

若い世代を中心に
直播栽培導入
意欲が向上

勉強の場はあるけど
曖昧な情報が錯綜。
何が正しいのだろう･･･

現場の声を
聞くと･･･

基本技術の理解と
実践で安定生産！



2　活動の経過

基本技術励行を提案　実践効果を共に確認〈湛水直播志向農業者４戸〉

Ｒ７年は“湛水直播導入 １～４年目の農業者”を対象に支援

◎戸別巡回
【基本技術目標シート】を配布

◎実態調査
基本技術の実践効果を
農業者と一緒に観察・分析
個別の課題の整理を行った

目標：４項目以上達成

提案した技術項目	目的
は種前の代かき 点播なら３日前まで ドローンなら１～２日前まで	は種深度０～１cm 苗立率の安定化
適切な走水を行い、 大きなヒビを入れないこと	苗立率の安定化 は種同時除草剤の 効果安定化
苗立本数150～200本/㎡ 目標本数が確保されたら 速やかに本入水	倒伏リスク回避 収量確保
除草剤の適期使用 ホタルイ３葉期前までの処理	問題雑草 ホタルイの抑制
中干しの実施による 根の活力向上＋地固め	登熟促進 倒伏リスク回避

対象農業者６戸は
２回とも参加

現地研修会の実施、農業者同士の情報交換を支援

6/27

他の普及センター職員から
話を聞いてみましょう

8/1

今年は直播水稲も
早くに収穫できそうですね

冬に反省会を行うので
ぜひ集まりましょう！

3　成果の具体的内容

①技術項目４項目以上を実践！

技術項目達成戸数
（現況０戸→目標４戸→実績３戸）

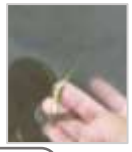
は種前の
代かき日調整

適度な走水

目標苗立
本数の確保

苗立本数　全戸で１５０本/㎡以上を達成
苗立率安定技術への理解が深まった

ホタルイ３葉期で
除草剤を撒いた結果、
残草してしまった！



昨年より早めに除草剤を撒いて
ホタルイは枯れた。稲が小さくても
問題無いことが分かった！

《技術項目実践の評価》

技術項目＼農業者	A	B	C	D
代かき～は種日数	○	○	－	○
適切な走水	○	○	○	○
適期に本入水	○	○	○	△
除草剤の適期使用	○	△	○	△
中干し・地固め	○	○	○	○
４項目以上達成	◎	◎	◎	－

○実践した
△実践しようとしたが目的は達成しなかった

湛水直播における**除草剤散布時期の目安が共有された**

②次年度に向けた課題が整理された

《生育調査結果》

生育調査＼農業者	A	B	C	D
苗立本数	○187	○164	○194	△252
倒伏割合	△25％	ほぼ全倒伏	なし	ほぼ全倒伏
収量(kg/10a)	612	588	640	568

残された問題点
・倒伏の発生
・は種ムラ・流れ籾
・雑草が残る

R8年度の課題として
取り組んでみよう！

農業者A
○ 水深が深くなった
箇所で籾が流れ、
籾が寄った箇所で倒伏

は種後の溝切りによる
表面水の速やかな入排水

農業者B
○ 復元田だったが、
施肥量が多かった
○ ドローンのは種ムラ
が目立った

施肥設計の見直し

種子予措改善等による
ドローンのは種ムラ回避

農業者Ｄ
○ 苗立調査の結果から、は種量
を減らすべきだと理解できた

次年度は湛水直播を
実施しないが、将来は
乾田直播を導入予定。
本年の事例を活用する。

③直播研究会の研修会にて共有

倒伏対策は、は種から
始まってることが分かった！

管外の優良事例が聞けて良かった
うちでもやってみようかな！

4　今後の課題と対応

・課題が明確になったため、次年度の実践とその効果を確認
・直播研究会に対して、他地域への視察、農業者同士の交流を支援

【空知農業改良普及センター中空知支所　専門普及指導員　水尾　健斗】